

# 親の子供に対するキャリア観と ジェンダーに関する意識調査

## 株式会社アイデム

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10 アイデム本社ビル

お問い合わせ

広報担当 / 望月

調査担当 / 小杉

電話 03-5269-8780 メール [kouhousitu@aidem.co.jp](mailto:kouhousitu@aidem.co.jp)

# 目次

調査概要	.....	3
1 家族との会話の内容	.....	4
2 親の仕事への興味や関心	.....	5
3 親の働く姿を見せることの是非	.....	6
4 子供に望む学歴	.....	7
5 子供の進路選択や働き方に対する考え	.....	8
6 就業観や夢の選び方が変わったか	.....	14
7 学校での職業体験	.....	15
8 現時点でのキャリア教育の必要性	.....	16
9 キャリア教育として有効なこと	.....	17
10 キャリア教育について良かったと思える取り組み	.....	19
11 ジェンダー平等に対する考え	.....	20
12 中学校等学びの場でのジェンダー平等は進んでいるか	.....	21
13 回答者の親の就業状況と自身が子供の頃の家庭における性別役割分担意識の有無	.....	22
14 配偶者との家事・育児の分担割合	.....	23
15 将来子供が結婚した際の家事・育児や仕事に対する考え	.....	24
16 男性育休に対する考え	.....	25
17 性別役割分担意識に基づく子供への行動の促し	.....	26
18 性別の違う子供に対する対応の違いについて	.....	27
19 性別の違う子供に対する将来期待する学歴の違いについて	.....	28
20 男の子に将来重視してほしいこと	.....	29
21 女の子に将来重視してほしいこと	.....	30

# 調査概要

**調査目的** 親の子供に対するキャリア観とジェンダーに関する意識について調査する

**調査対象** 長子が中学校1年生から中学校3年生までの子供を持つ男女

**調査方法** インターネット調査

**調査期間** 2022年4月8日～11日

**有効回答** 1200名

## 回答者内訳

性別		全体	
回答者性別	子供性別	n	%
男性	男子	300	25.0
男性	女子	300	25.0
女性	男子	300	25.0
女性	女子	300	25.0
計		1200	100.0

婚姻状況	全体	
	n	%
既婚	1122	93.5
未婚・離別・死別	78	6.5
計	1200	100.0

就労状況	男性回答者		女性回答者	
	n	%	n	%
正社員	528	88.0	108	18.0
自営業・フリーランス等の個人事業主	41	6.8	13	2.2
契約・嘱託社員	16	2.7	12	2.0
派遣社員	3	0.5	9	1.5
パート・アルバイト	8	1.3	239	39.8
無職	4	0.7	219	36.5
計	600	100.0	600	100.0

年代	全体	
	n	%
30代	175	14.6
40代	736	61.3
50代以上	289	24.1
計	1200	100.0

最終学歴	全体	
	n	%
大卒未満	602	50.2
大卒以上	598	49.8
計	1200	100.0

●本調査は回答割合の表示において小数点以下第2位を四捨五入しているため、結果が100.0%にならない場合がある。

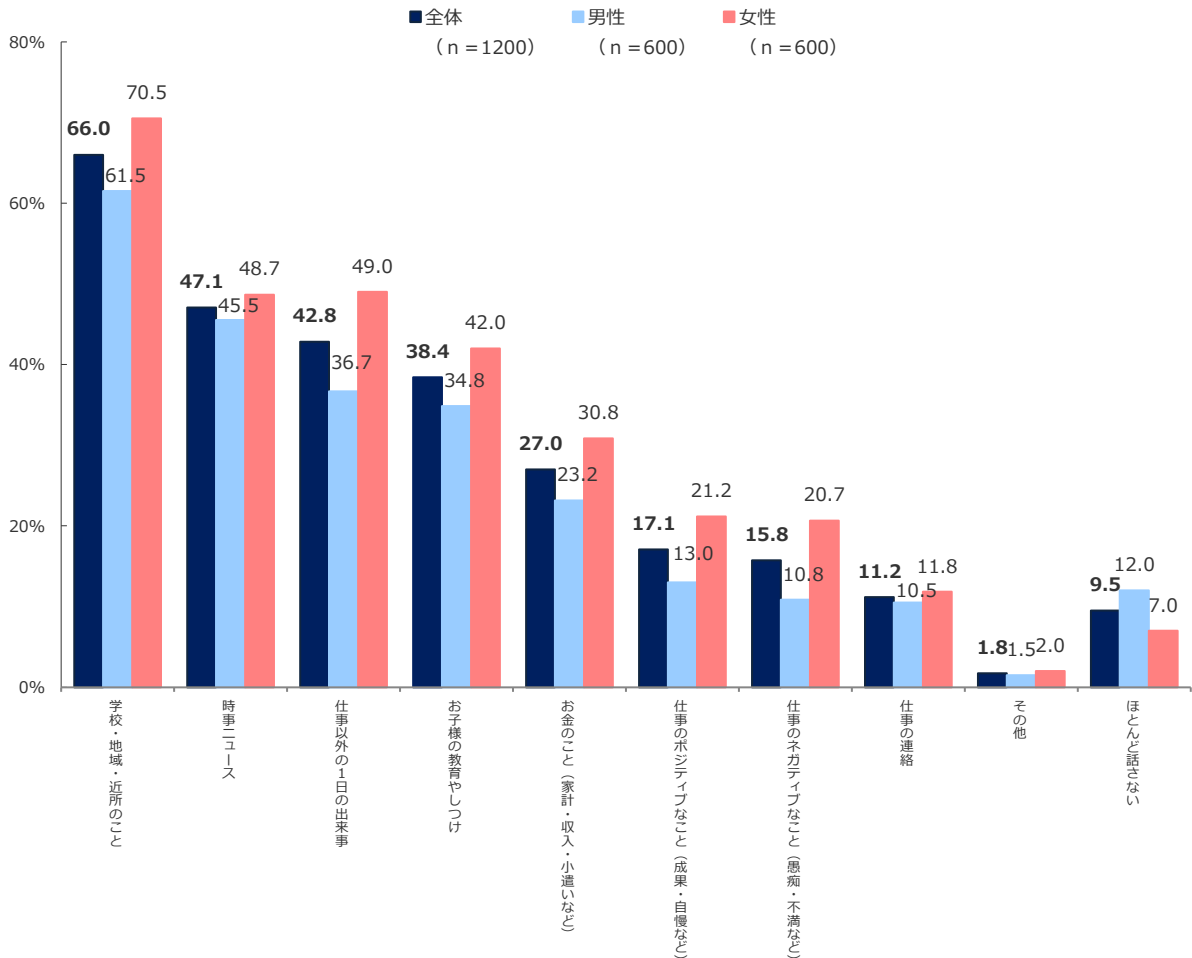
# 家族との会話の内容

中学生の子供がいる男女に、子供がいる場で家族で話す内容はどのようなものが多いかを聞いた。

最も多かったのは「学校・地域・近所のこと」で66.0%、次いで「時事ニュース」47.1%、「仕事以外の1日の出来事」42.8%、「子供の教育やしつけ」38.4%となっている。

回答者の性別でみると、「ほとんど話さない」を除いたすべての項目で、男性より女性の方が回答割合が高くなっている。中でも「仕事以外の1日の出来事」は男性36.7%に対して女性49.0%となり、12.3ポイントの開きがあった。子供と比較的接触機会の多い母親の方が、さまざまな話題で話をしているようだ（図1）。

【図1】 家族との会話の内容（複数回答）：回答者性別



## 親の仕事への興味や関心

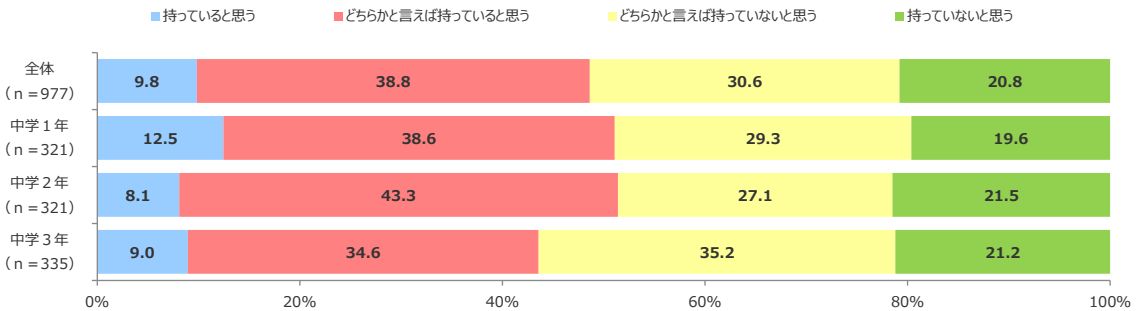
中学生の子供がいる男女に、子供が親の仕事について話をしたり質問をするなど興味や関心を持っていると思うかを聞いた。

全体では「持っていると思う」9.8%、「どちらかと言えば持っていると思う」38.8%となり、合わせて48.6%の回答者が、子供は親の仕事への興味や関心を「持っていると思う」と回答している。

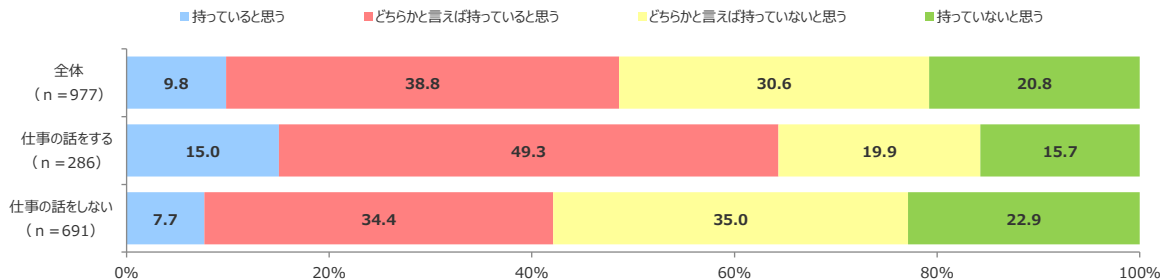
学年別にみると、「持っていると思う（どちらかと言えば含む/以下同）」は中学1年で51.1%、中学2年で51.4%、中学3年で43.6%と低学年の方が親の仕事への興味や関心を「持っていると思う」の回答割合が高い（図2.1）。

また、「1.家族との会話の内容」について、「仕事のポジティブなこと（成果・自慢など）」「仕事のネガティブなこと（愚痴・不満など）」「仕事の連絡」のいずれかを選択している回答者を「仕事の話をする」、それ以外の者を「仕事の話をしていない」に分けて関係を見ると、「仕事の話をする」家庭の方が、「仕事の話をしていない」家庭と比べて、親の仕事への興味や関心を「持っていると思う（どちらかと言えば含む/以下同）」と回答した割合が高くなっている。具体的には、「持っていると思う」は「仕事の話をする」家庭では64.3%、「仕事の話をしていない」家庭では42.1%となり、22.2ポイントの開きがあった（図2.2）。家庭内で仕事の話をすることで、子供は親の仕事への興味や関心を持つようだ。

【図2.1】親の仕事への興味や関心：学年別



【図2.2】親の仕事への興味や関心：家族との会話の内容別



## 親の働く姿を見せることの是非

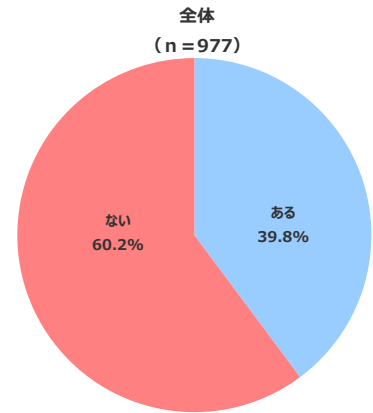
中学生の子供がいて就労している男女に、自身の働く姿を子供に見せたことがあるかを聞いたところ、「ある」が39.8%、「ない」が60.2%となった（図3.1）。

また、自身の働く姿を子供に見せることは良いことだと思うかを聞いたところ、「良いことだと思う」が40.3%、「どちらかと言えば良いことだと思う」が51.1%で、合わせて91.4%が肯定的に捉えていた。

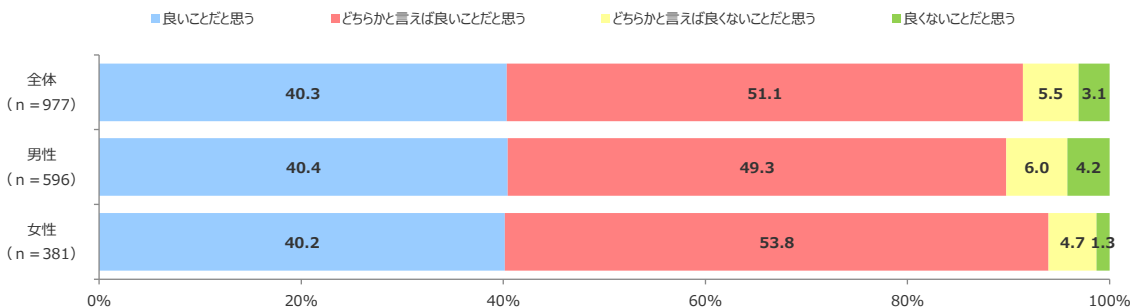
回答者の性別でみると、「良いことだと思う（どちらかと言えば含む）」の割合は男性89.7%、女性94.0%と女性の方が4.3ポイント高くなっており、母親である女性の方が自身の働く姿を子供に見せることについてより強い肯定感がある（図3.2）。

学年別でみると、中学1年の親の肯定感が最も強くなっていった（図3.3）。

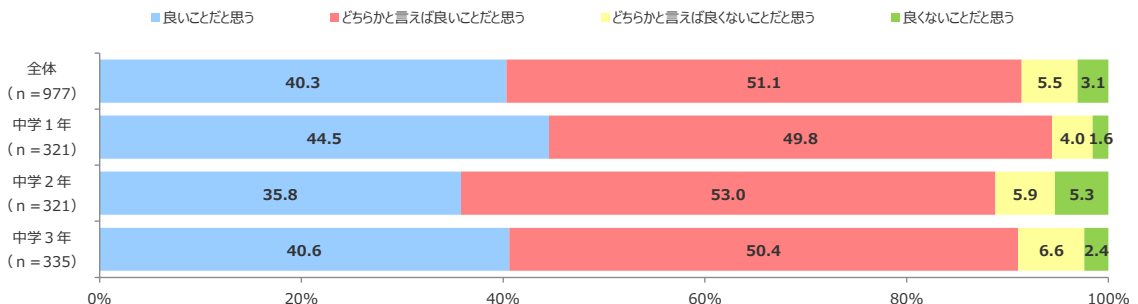
【図3.1】働く姿を子供に見せたことがあるか



【図3.2】親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：回答者性別



【図3.3】親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：学年別



## 子供に望む学歴

中学生の子供がいる男女に、子供に将来どこまでの学歴を望むかを聞いた。

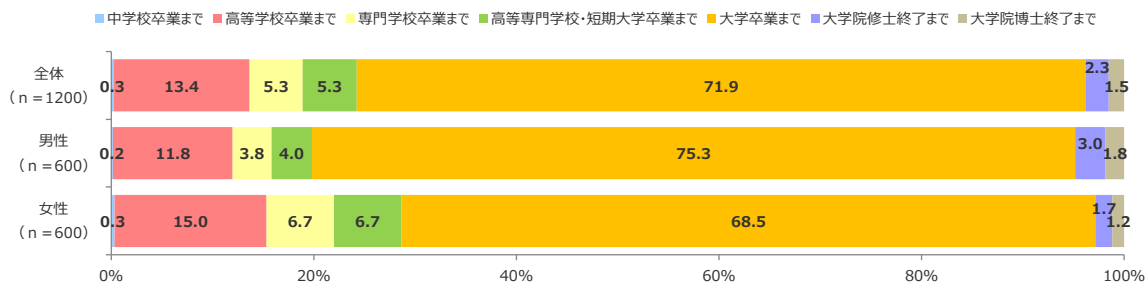
全体では「大学卒業まで」が71.9%と7割強を占め、次点は「高等学校卒業まで」で13.4%となった。「中学校卒業まで」から「高等専門学校・短期大学卒業まで」の回答を「大卒未満（以下同）」、「大学卒業まで」から「大学院修士終了まで」の回答を「大卒以上（以下同）」とまとめると、子供に望む学歴は「大卒未満」が24.3%、「大卒以上」が75.7%となっている。

回答者の性別で見ると、子供に「大卒以上」の学歴を望むのは男性で80.1%、女性で71.4%となり、女性に比べて男性の方が8.7ポイント割合が高くなっていた（図4.1）。

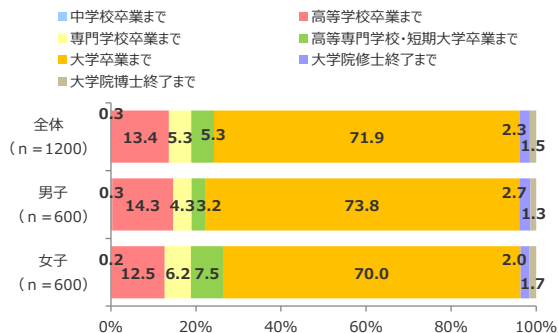
子供の性別で親が子供に望む学歴をみると、男子は「大卒以上」77.8%、女子は「大卒以上」73.7%となり、女子に比べて男子に「大卒以上」の学歴を望む親の割合が高く、4.1ポイントの差があった（図4.2）。

また、親の最終学歴別に子供に望む学歴をみると、子供に「大卒以上」を望むのは、最終学歴が大卒未満の親が59.8%、大卒以上の親が91.7%となっており、大卒以上の親の方が31.9ポイント高くなっていた（図4.3）。子供には自身と同等以上の教育を受けさせたいと考えている親が多いことがうかがえる。

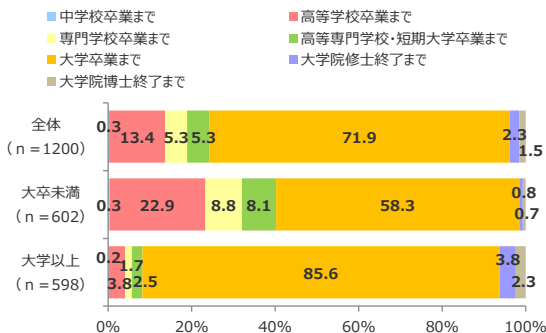
【図4.1】子供に望む学歴：回答者性別



【図4.2】子供に望む学歴：子供性別



【図4.3】子供に望む学歴：回答者の最終学歴別



# 子供の進路選択や働き方に対する考え

中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対してどのように考えているかを聞いた。具体的には、「専攻」「学歴」「職業」「専門性」「労働時間と収入」「転職」「社会的地位」「会社の知名度」「勤務地」「ワーク・ライフ・バランス」の10項目について、それぞれ項目内でAとBのどちらの考えに近いのかを4尺度で聞いている（文章中「どちらかと言えば」をAもしくはBに含めて表記）。

「専攻」については、「理系に進んでほしい」の方が多く計68.5%。

「学歴」については、「高学歴の方がよい」の方が多く計67.9%。

「職業」については、「安定した仕事に就いてほしい」の方が多く計60.9%。

「専門性」については、「その道を究めるスペシャリストになってほしい」の方が多く計62.5%

「労働時間と収入」については、「収入は少ないが、労働時間は短いまたは休みが多い仕事に就いてほしい」の方が多く計55.2%。

「転職」については、「自分に合わない仕事であれば、すぐに転職して構わない」の方が多く計50.5%。

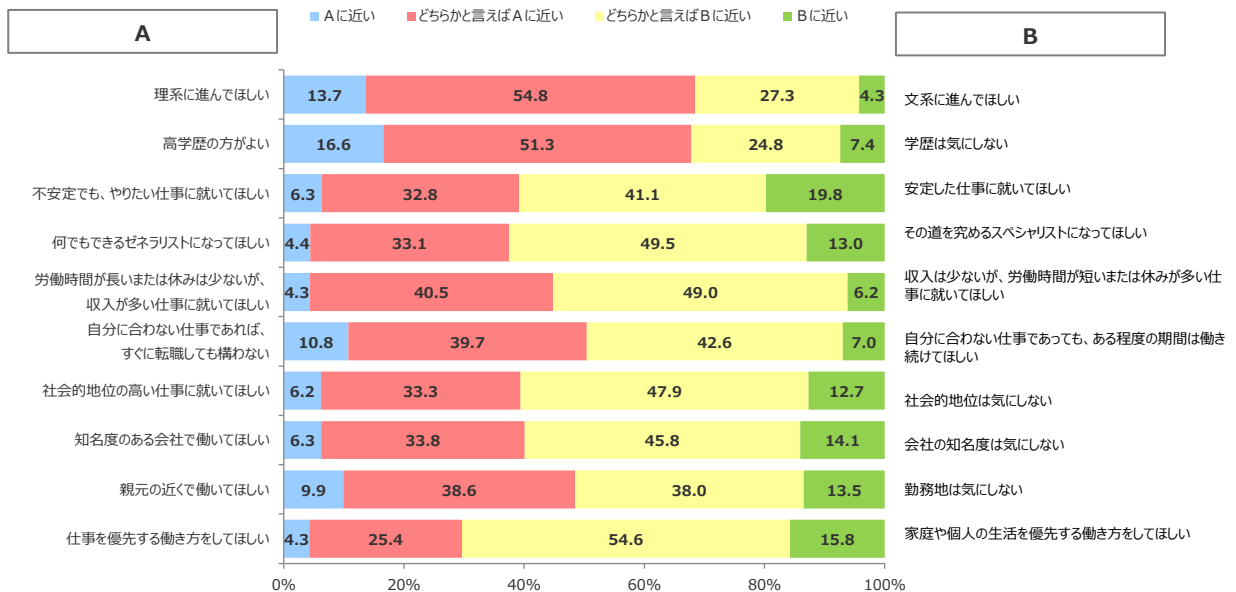
「社会的地位」については、「社会的地位は気にしない」の方が多く計60.6%。

「会社の知名度」については、「会社の知名度は気にしない」の方が多く計59.9%。

「勤務地」については、「勤務地は気にしない」の方が多く計51.5%。

「ワーク・ライフ・バランス」については、「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」の方が多く計70.4%であった（図5.1）。

【図5.1】子供の進路選択や働き方に対する考え（全体計）



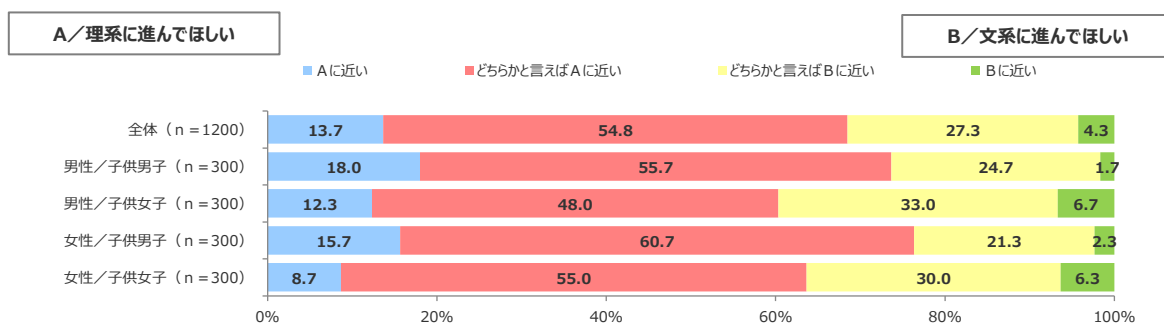


## ①専攻について／理系か文系か

中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、専攻について「理系に進んでほしい」のか「文系に進んでほしい」のかを聞いたところ、「理系に進んでほしい」13.7%、「どちらかと言えば理系に進んでほしい」54.8%、「どちらかと言えば文系に進んでほしい」27.3%、「文系に進んでほしい」4.3%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「理系に進んでほしい（どちらかと言えば含む／以下同）」が68.5%、「文系に進んでほしい（どちらかと言えば含む／以下同）」が31.6%である。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、子供に「理系に進んでほしい」と考えている親は、「女性／子供男子」が76.4%と最も多く、次いで「男性／子供男子」が73.7%となっている。子供が男子の場合に、「理系に進んでほしい」と考えている親の割合が高くなっていた（図5.2）。

【図5.2】子供の進路選択や働き方に対する考え①：回答者性別×子供性別

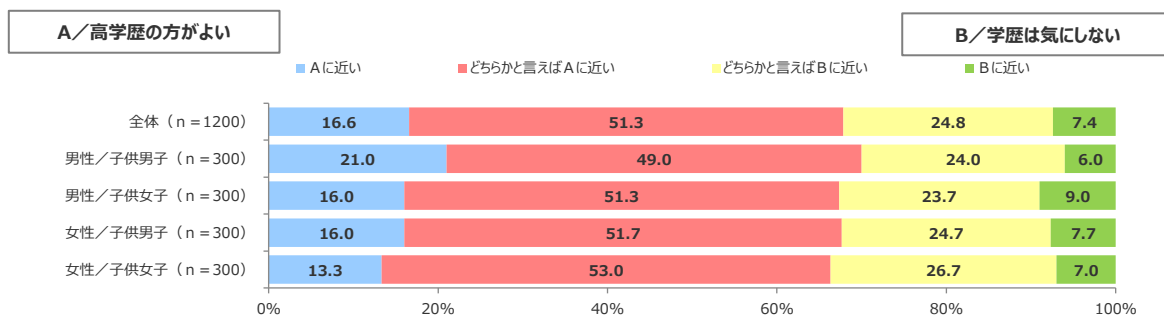


## ②学歴について／高学歴を望むか

中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、学歴について「高学歴の方がよい」のか「学歴は気にしない」のかを聞いたところ、「高学歴の方がよい」16.6%、「どちらかと言えば高学歴の方がよい」51.3%、「どちらかと言えば学歴は気にしない」24.8%、「学歴は気にしない」7.4%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「高学歴の方がよい（どちらかと言えば含む／以下同）」が67.9%、「学歴は気にしない（どちらかと言えば含む／以下同）」が32.2%である。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、「高学歴の方がよい」と考えている親は、「男性／子供男子」が70.0%と最も多く、次いで「女性／子供男子」が67.7%となっている。子供が男子の場合に、「高学歴の方がよい」と考えている親の割合が高くなっていた（図5.3）。

【図5.3】子供の進路選択や働き方に対する考え②：回答者性別×子供性別

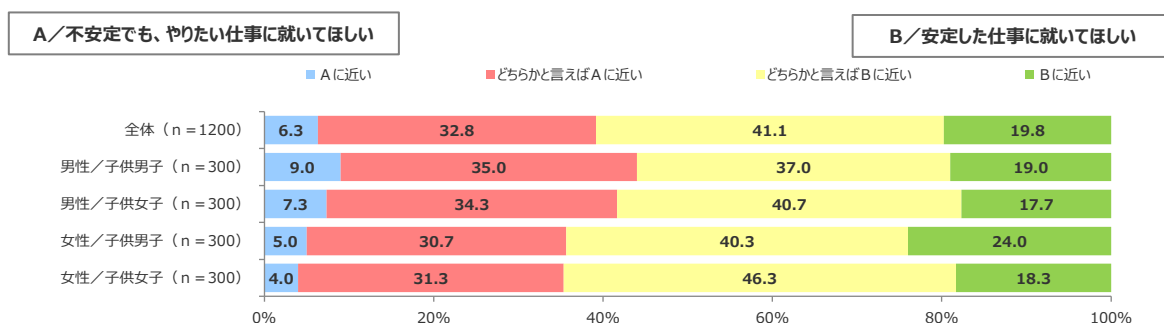


### ③職業について／やりたい仕事か安定した仕事か

中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、職業について「不安定でも、やりたい仕事に就いてほしい」のか「安定した仕事に就いてほしい」のかを聞いたところ、「不安定でも、やりたい仕事に就いてほしい」6.3%、「どちらかと言えば不安定でも、やりたい仕事に就いてほしい」32.8%、「どちらかと言えば安定した仕事に就いてほしい」41.1%、「安定した仕事に就いてほしい」19.8%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「不安定でも、やりたい仕事に就いてほしい（どちらかと言えば含む／以下同）」が39.1%、「安定した仕事に就いてほしい（どちらかと言えば含む／以下同）」が60.9%である。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、「安定した仕事に就いてほしい」と考えているのは、母親の方が多い。「女性／子供女子」が64.6%と最も多く、次いで「女性／子供男子」が64.3%となっている。「安定した仕事に就いてほしい」と考えている親が過半数に達しているものの、「男性／子供男子」では「不安定でも、やりたい仕事に就いてほしい」とする割合が半数近くに上った（図5.4）。

【図5.4】子供の進路選択や働き方に対する考え③：回答者性別×子供性別

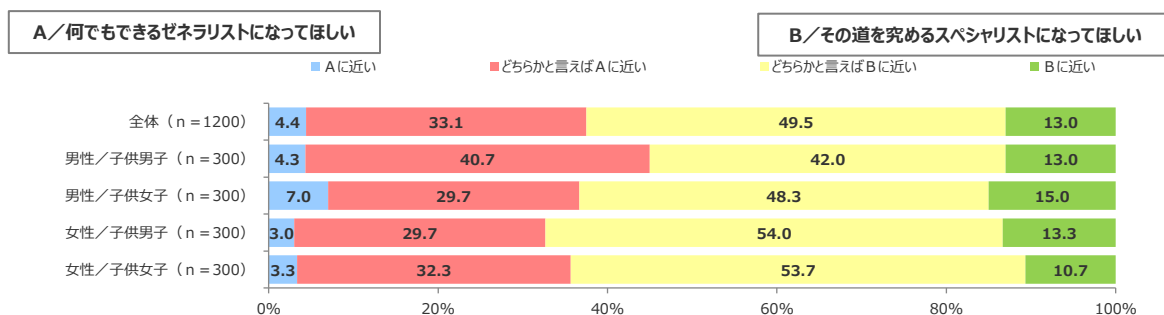


### ④専門性について／ゼネラリストかスペシャリストか

中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、専門性について「何でもできるゼネラリストになってほしい」のか「その道を探るスペシャリストになってほしい」のかを聞いたところ、「何でもできるゼネラリストになってほしい」4.4%、「どちらかと言えば何でもできるゼネラリストになってほしい」33.1%、「どちらかと言えばその道を探るスペシャリストになってほしい」49.5%、「その道を探るスペシャリストになってほしい」13.0%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「何でもできるゼネラリストになってほしい（どちらかと言えば含む／以下同）」が37.5%、「その道を探るスペシャリストになってほしい（どちらかと言えば含む／以下同）」が62.5%である。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、「その道を探るスペシャリストになってほしい」と考えている親は、「女性／子供男子」が67.3%と最も多く、次いで「女性／子供女子」が64.4%となっている。「その道を探るスペシャリストになってほしい」と考えている親が過半数に達しているものの、「男性／子供男子」では「何でもできるゼネラリストになってほしい」とする割合が半数近くに上った（図5.5）。

【図5.5】子供の進路選択や働き方に対する考え④：回答者性別×子供性別

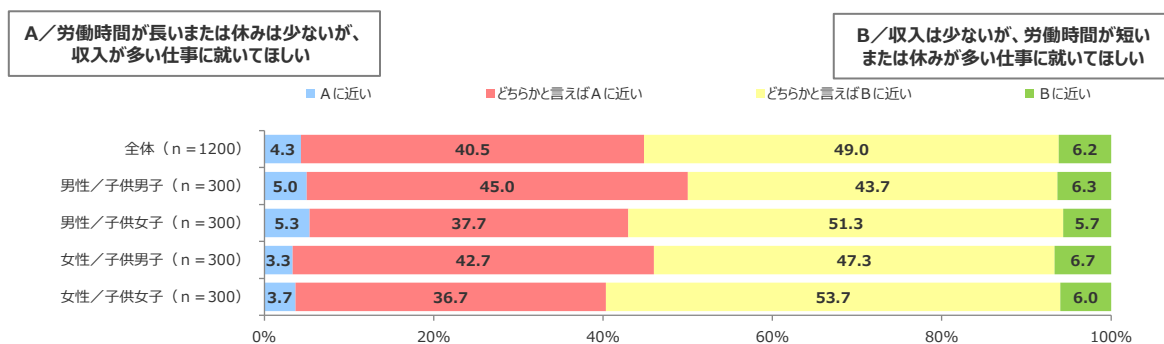


## ⑤労働時間と収入について／労働時間が長く収入が多い仕事か収入は少ないが労働時間が短い仕事か

中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、労働時間と収入について「労働時間が長いまたは休みは少ないが、収入が多い仕事に就いてほしい」のか「収入は少ないが、労働時間が短いまたは休みが多い仕事に就いてほしい」のかを聞いたところ、「労働時間が長いまたは休みは少ないが、収入が多い仕事に就いてほしい」40.5%、「どちらかと言えば収入は少ないが、労働時間が短いまたは休みが多い仕事に就いてほしい」49.0%、「収入は少ないが、労働時間が短いまたは休みが多い仕事に就いてほしい」6.2%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「労働時間が長いまたは休みは少ないが、収入が多い仕事に就いてほしい（どちらかと言えば含む／以下同）」が44.8%、「収入は少ないが、労働時間が短いまたは休みが多い仕事に就いてほしい（どちらかと言えば含む／以下同）」が55.2%である。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、「収入は少ないが、労働時間が短いまたは休みが多い仕事に就いてほしい」と考えている親は、「女性／子供女子」が59.7%と最も多く、次いで「男性／子供女子」が57.0%となっている。子供が男子の場合、「労働時間が長いまたは休みは少ないが、収入が多い仕事に就いてほしい」と考える親も多く、「男性／子供男子」では半数に達した（図5.6）。

【図5.6】子供の進路選択や働き方に対する考え⑤：回答者性別×子供性別

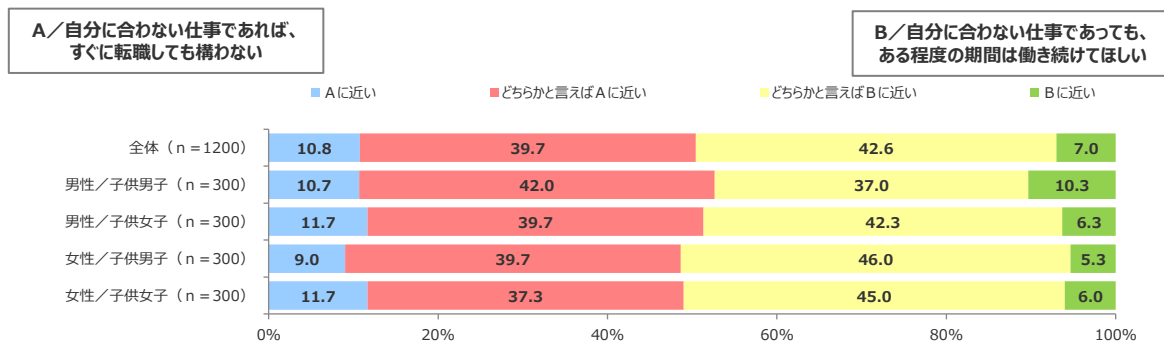


## ⑥転職について／すぐに転職しても構わないかある程度の期間は働き続けるべきか

中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、転職について「自分に合わない仕事であれば、すぐに転職しても構わない」のか「自分に合わない仕事であっても、ある程度の期間は働き続けてほしい」のかを聞いたところ、「自分に合わない仕事であれば、すぐに転職しても構わない」10.8%、「どちらかと言えば自分に合わない仕事であれば、すぐに転職しても構わない」39.7%、「どちらかと言えば自分に合わない仕事であっても、ある程度の期間は働き続けてほしい」42.6%、「自分に合わない仕事であっても、ある程度の期間は働き続けてほしい」7.0%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「自分に合わない仕事であれば、すぐに転職しても構わない（どちらかと言えば含む／以下同）」が49.6%である。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、「自分に合わない仕事であれば、すぐに転職しても構わない」と考えている親は、「男性／子供男子」が52.7%と最も多く、次いで「男性／子供女子」が51.4%となっている。父親は“すぐに転職しても構わない”との回答が半数を超えているが、反対に母親の回答は子供の性別に関係なく“ある程度の期間は働き続けてほしい”とする割合が半数を超えている（図5.7）。

【図5.7】子供の進路選択や働き方に対する考え⑥：回答者性別×子供性別

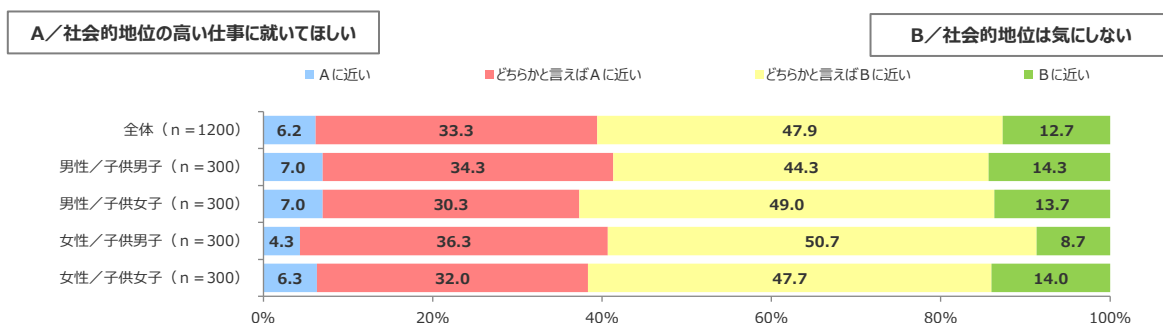


## ⑦社会的地位について／社会的地位の高さを気にするか

中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、社会的地位について「社会的地位の高い仕事に就いてほしい」のか「社会的地位は気にしない」のかを聞いたところ、「社会的地位の高い仕事に就いてほしい」6.2%、「どちらかと言えば社会的地位の高い仕事に就いてほしい」33.3%、「どちらかと言えば社会的地位は気にしない」47.9%、「社会的地位は気にしない」12.7%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「社会的地位の高い仕事に就いてほしい（どちらかと言えば含む／以下同）」が39.5%、「社会的地位は気にしない（どちらかと言えば含む／以下同）」が60.6%である。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、「社会的地位は気にしない」と考えている親は、「男性／子供女子」が62.7%と最も多く、次いで「女性／子供女子」が61.7%となっている。一方、「社会的地位は気にしない」と考えている親が過半数に達しているものの、男子については父親母親ともに「社会的地位の高い仕事に就いてほしい」との割合が女子に比べて高くなっている（図5.8）。

【図5.8】子供の進路選択や働き方に対する考え⑦：回答者性別×子供性別

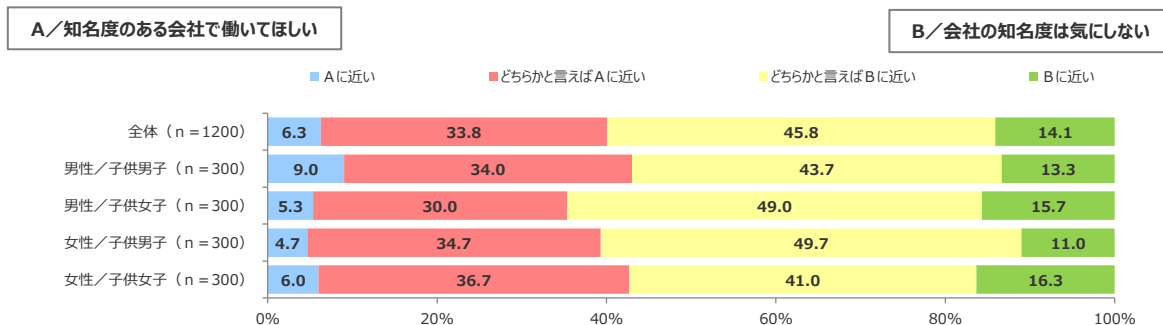


## ⑧会社の知名度について／会社の知名度を気にするか

中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、会社の知名度について「知名度のある会社で働いてほしい」のか「会社の知名度は気にしない」のかを聞いたところ、「知名度のある会社で働いてほしい」6.3%、「どちらかと言えば知名度のある会社で働いてほしい」33.8%、「どちらかと言えば会社の知名度は気にしない」45.8%、「会社の知名度は気にしない」14.1%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「知名度のある会社で働いてほしい（どちらかと言えば含む／以下同）」が40.1%、「会社の知名度は気にしない（どちらかと言えば含む／以下同）」が59.9%である。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、「会社の知名度は気にしない」と考えている親は、「男性／子供女子」が64.7%と最も多く、次いで「女性／子供男子」が60.7%となっている。「会社の知名度は気にしない」と考えている親が過半数に達しているものの、父親母親ともに自分と同性の子供には「知名度のある会社で働いてほしい」とする割合が高くなっている（図5.9）。

【図5.9】子供の進路選択や働き方に対する考え⑧：回答者性別×子供性別

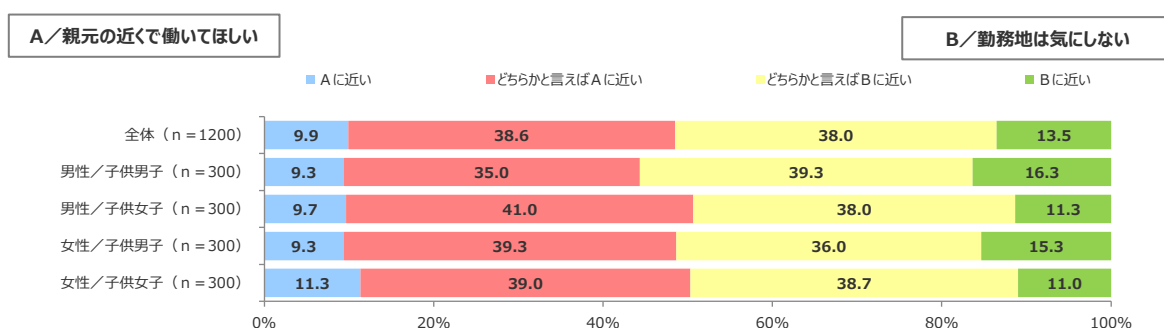


## ⑨勤務地について／親元の近くで働いてほしいか

中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、勤務地について「親元の近くで働いてほしい」のか「勤務地は気にしない」のかを聞いたところ、「親元の近くで働いてほしい」9.9%、「どちらかと言えば親元の近くで働いてほしい」38.6%、「どちらかと言えば勤務地は気にしない」38.0%、「勤務地は気にしない」13.5%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「親元の近くで働いてほしい（どちらかと言えば含む／以下同）」が48.5%、「勤務地は気にしない（どちらかと言えば含む／以下同）」が51.5%である。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、「勤務地は気にしない」と考えている親は、「男性／子供男子」が55.6%と最も多く、次いで「女性／子供男子」が51.3%となっている。子供が男子だと「勤務地は気にしない」と考えている親が過半数に達しているものの、子供が女子だと父親母親ともに「親元の近くで働いてほしい」とする回答が過半数となった（図5.10）。

【図5.10】子供の進路選択や働き方に対する考え⑨：回答者性別×子供性別

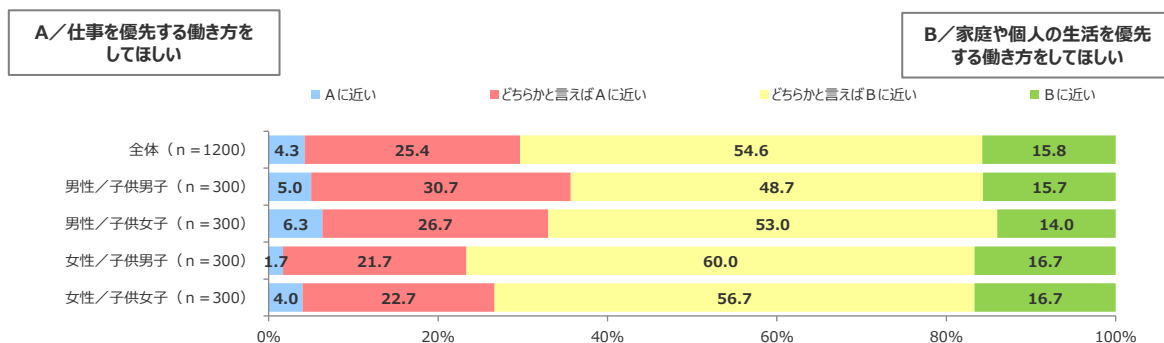


## ⑩ワーク・ライフ・バランスについて／仕事優先か家庭優先か

中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、ワーク・ライフ・バランスについて「仕事を優先する働き方をしてほしい」のか「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」のかを聞いたところ、「仕事を優先する働き方をしてほしい」4.3%、「どちらかと言えば仕事を優先する働き方をしてほしい」25.4%、「どちらかと言えば家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」54.6%、「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」15.8%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「仕事を優先する働き方をしてほしい（どちらかと言えば含む／以下同）」が29.7%、「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい（どちらかと言えば含む／以下同）」が70.4%である。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」と考えている親は、「女性／子供男子」が76.7%と最も多く、次いで「女性／子供女子」が73.4%となっている。「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」と考えている親が過半数に達しているものの、父親は「仕事を優先する働き方をしてほしい」の割合が母親に比べ高くなっている（図5.11）。

【図5.11】子供の進路選択や働き方に対する考え⑩：回答者性別×子供性別



## 就業観や夢の選び方が変わったか

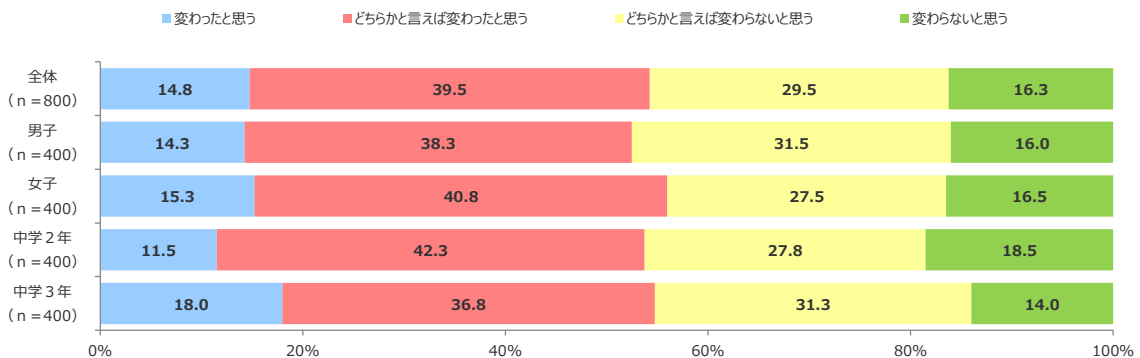
中学2～3年生の子供がいる男女に、中学生になった子供について、小学生の頃と比べて就業観や将来の夢の選び方が変わったかを聞いたところ、全体では「変わったと思う」14.8%、「どちらかと言えば変わったと思う」39.5%、「どちらかと言えば変わらないと思う」29.5%、「変わらないと思う」16.3%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「変わったと思う（どちらかと言えば含む/以下同）」が54.3%、「変わらないと思う（どちらかと言えば含む/以下同）」が45.8%である。

子供の性別でみると、「変わったと思う」「変わったと思う」は、男子で52.6%、女子で56.1%となり、女子の方が3.5ポイント割合が高くなっている。

学年別にみると、「変わったと思う」は中学2年で53.8%、中学3年で54.8%となり、中学3年の方が割合が若干高くなった（図6）。

なお、「変わったと思う」「どちらかと言えば変わったと思う」と回答した親に、具体的に変わったと思うことをフリーアンサーで回答してもらった。いろいろな回答があったが、「憧れや理想、実現度の低い夢から、現実的な夢に変化してきている」という書き込みが多く見られた。

【図6】就業観や夢の選び方は変わったか：子供性別／学年別



### 【就業観や夢の選び方で変わったこと】

- 憧れだけではなく、希望を持ちながら現実的に考えるようになった。（40歳母親／中3男子）
- 漠然とした夢だったものが、具体的に自分のやりたいことが見えてきているように思う。（46歳母親／中3女子）
- どのような仕事をするのかなど自分で調べ、考えがより詳しく現実的になった。（41歳母親／中2女子）
- 中学2年で職場体験を経験して、やりたいことがわかってきた気がする。（41歳母親／中2女子）
- 小学生の頃は漁師を夢見ていたが、収入が少ないことを知って現実的な夢に変わったようだ。（54歳父親／中3男子）
- 小学生の頃は、ただ漠然と好きなものを仕事にしたいと言っていましたが、今は自分の得意分野を伸ばしてできる仕事を目標にしています。（35歳母親／中3男子）
- 小学生の頃はなりたい職業について考えていた。今は職業ではなく人相手の仕事とか技術職など、全体的なことを考えて選ぼうとしている。（45歳母親／中2男子）
- 小学生の頃は漠然と医者になりたがっていたが、中学生になってからは、自分の適性について考え、自分らしくいられる職種は何か？と考える基準が変わってきた。今後もまた変わるだろうと思う。（49歳母親／中2男子）
- 将来なってみたい職業にどんな経験や知識が必要か、学生のうちから触れたり学べることはあるのかを意識するようになった。（48歳父親／中2女子）

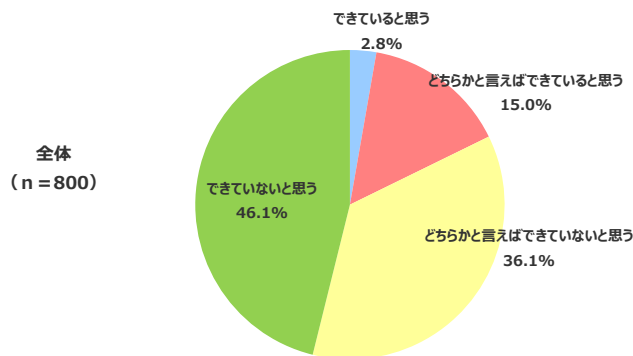


## 学校での職業体験

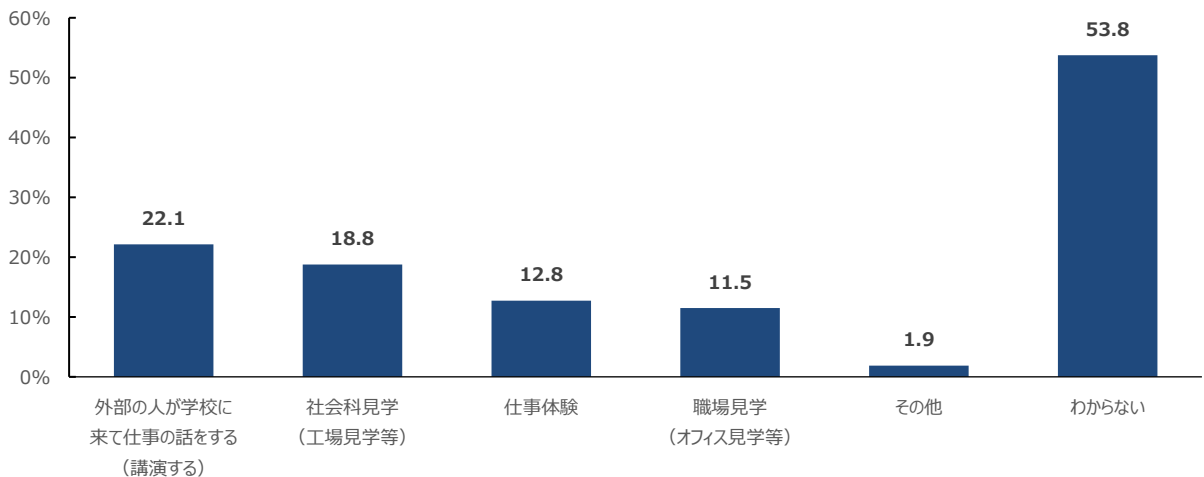
中学2～3年生の子供がいる男女に、コロナ禍において子供は学校やその他学び施設などでリアルに職業体験ができているかを聞いたところ、「できていると思う」2.8%、「どちらかと言えばできていると思う」15.0%、「どちらかと言えばできていないと思う」36.1%、「できていないと思う」46.1%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「できていると思う（どちらかと言えば含む）」が17.8%、「できていないと思う（どちらかと言えば含む）」が82.2%である（図7.1）。

また、コロナ禍において、学校ではどのような形で職業について学んでいるかを聞いたところ、「わからない」53.8%を除き、「外部の人が学校に来て仕事の話をする（講演する）」22.1%、「社会科見学（工場見学等）」18.8%、「仕事体験」12.8%、「職場見学（オフィス見学等）」11.5%の順となっている（図7.2）。

【図7.1】リアルに職業体験ができているか



【図7.2】学校での職業体験（複数回答）



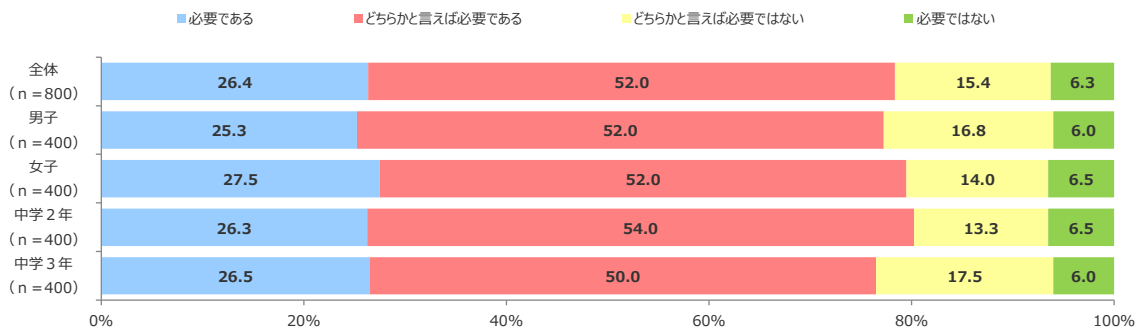
## 現時点でのキャリア教育の必要性

中学2～3年生の子供がいる男女に、子供が将来より充実して働くために、現時点で子供に対するキャリア教育は必要だと思うかを聞いたところ、「必要である」26.4%、「どちらかと言えば必要である」52.0%、「どちらかと言えば必要ではない」15.4%、「必要ではない」6.3%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「必要である（どちらかと言えば含む／以下同）」が78.4%、「必要ではない（どちらかと言えば含む／以下同）」が21.7%である。子供の性別で見ると女子の親の方が、学年別で見ると中学2年の親の方が、それぞれ他方よりもキャリア教育が「必要である」の回答割合が若干高くなっている（図8.1）。

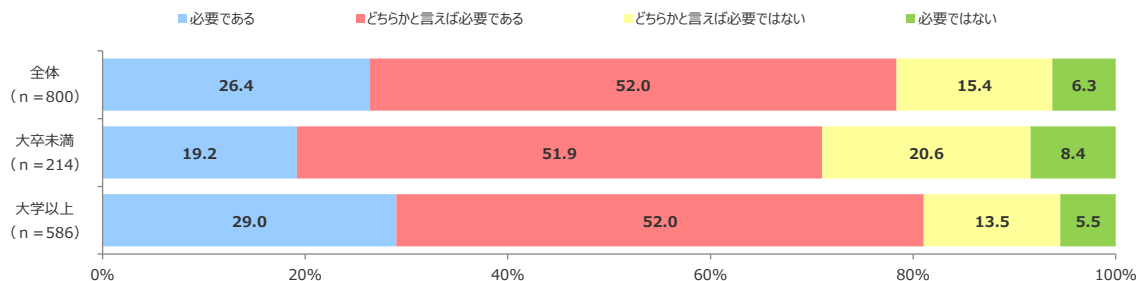
「4.子供に望む学歴別」で見ると、キャリア教育が「必要である」の回答割合が高くなっているのは、「大卒以上」の学歴を望む場合で、「大卒未満」71.1%に対して「大卒以上」81.0%と9.9ポイント割合が高くなっていた（図8.2）。

8割前後の親が、中学生のうちからキャリア教育の必要性を感じていることがうかがえる結果となった。

【図8.1】現時点でのキャリア教育の必要性：子供性別／学年別



【図8.2】現時点でのキャリア教育の必要性：子供に望む学歴別



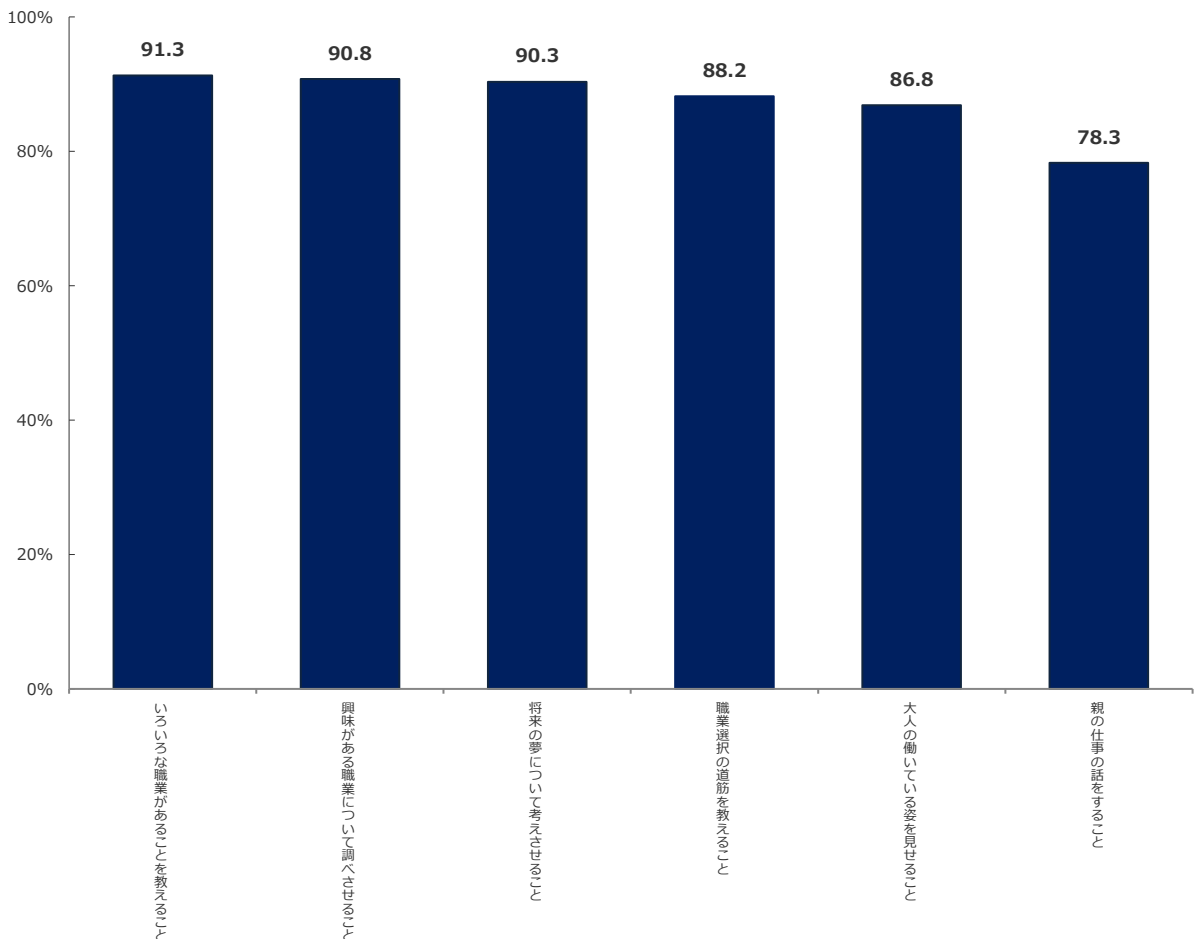


## キャリア教育として有効なこと

中学生の子供がいる男女に、子供が将来より充実して働くために、キャリア教育として以下の6項目は有効だと思うかを聞いた。「有効である（どちらかと言えば含む）」との回答は、「いろいろな職業があることを教えること」が91.3%と最も多く、次いで「興味がある職業について調べさせること」90.8%、「将来の夢について考えさせること」90.3%、「職業選択の道筋を教えること」88.2%、「大人の働いている姿を見せること」86.8%、「親の仕事の話をする事」78.3%の順であった（図9.1）。

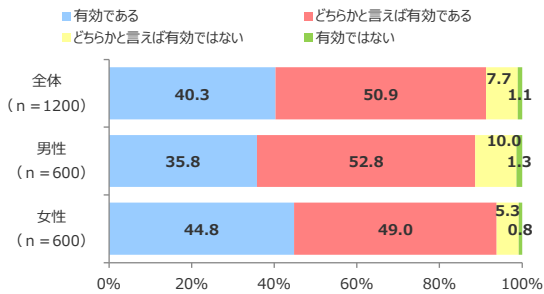
キャリア教育として有効だと思うことの6項目について回答者の性別でみたところ、母親はすべての項目で「有効である（どちらかと言えば含む）」の回答割合が父親よりも高くなっていった。なかでも「親の仕事の話をする事」では8.3ポイント、「大人の働いている姿を見せること」では7.0ポイントの開きがあった。また、「いろいろな職業があることを教えること」について、「どちらかと言えば」を含めない「有効である」だけの回答でみると、父親が35.8%に対して母親は44.8%となっており、母親の回答割合が9.0ポイント高くなっている（図9.2～図9.7）。

【図9.1】キャリア教育として有効なこと：有効度順

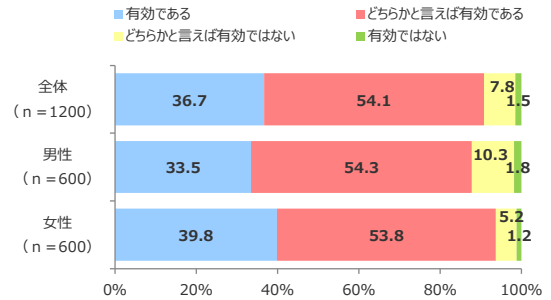


# キャリア教育として有効なこと

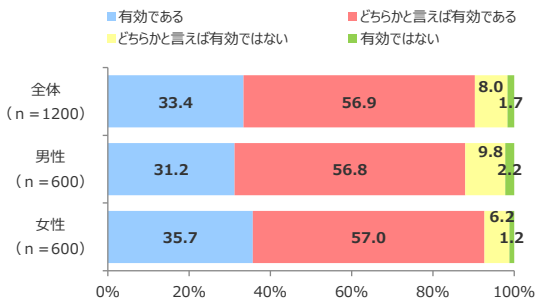
【図9.2】 いろいろな職業があることを教えること  
：回答者性別



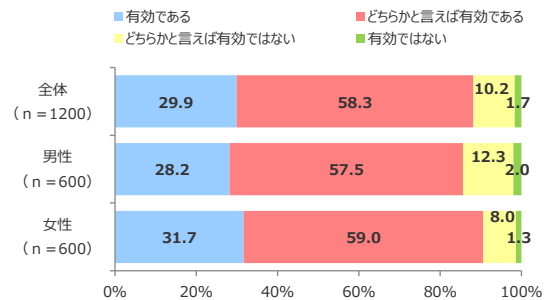
【図9.3】 興味がある職業について調べさせること  
：回答者性別



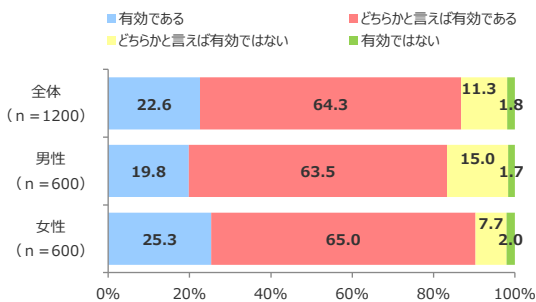
【図9.4】 将来の夢について考えさせること：回答者性別



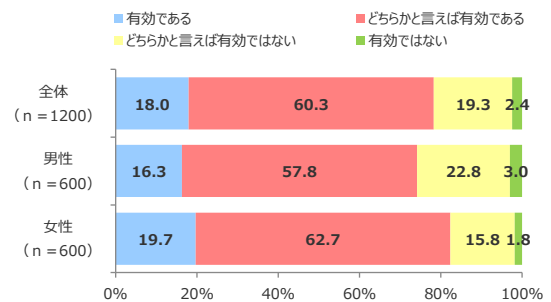
【図9.5】 職業選択の道筋を教えること：回答者性別



【図9.6】 大人の働いている姿を見せること：回答者性別



【図9.7】 親の仕事の話をする事：回答者性別

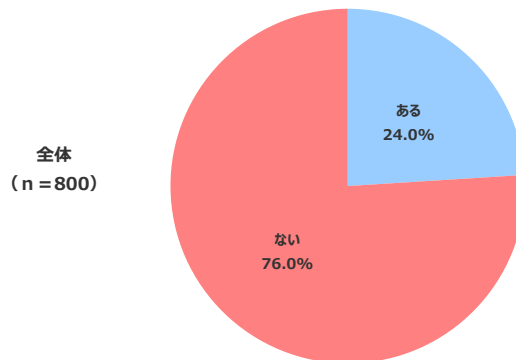


# キャリア教育について良かったと思える取り組み

中学2～3年生の子供がいる男女に、学校もしくは家庭において子供に対するキャリア教育について良かったと思える取り組みがあるかを聞いたところ、「ある」が24.0%、「ない」が76.0%であった（図10）。

また、「ある」と回答した親に、具体的に良かったと思える取り組みについてフリーアンサーで回答してもらった。いろいろな回答があったが、「外部の人が学校に来て仕事の話をする（講演する）」という書き込みが多く見られた。

【図10】キャリア教育について良かったと思える取り組みの有無



## 【キャリア教育について良かったと思える取り組み】

- 子供たちが憧れる代表的な職業に就いている人を複数呼び、理想と現実を交えながらさまざまな話が聞けたこと。（46歳母親／中2男子）
- 学校の先生が若い時にどういう目的意識をもって学んでいたか、具体的にどういう分野の勉強をしていたか、教職につくまでに触れた様々な分野とかを教えてくれた。（48歳父親／中2女子）
- その仕事のメリットデメリットを少しでも伝えることで想像しやすい。学校ではキャリアノートでやりたいことを考える時間を作ってくれているのでありがたい。（38歳母親／中3男子）
- 学校にいろんな職種の方が来て、仕事の内容、やりがい、そして子供たちの質問にも答えてくれたので、子供もこれから将来のことを考えるきっかけになっていると思う。（46歳父親／中3男子）
- 卒業した小学校へ行き、学校の先生のような教育実習を体験できたこと。（46歳母親／中2女子）
- 夫が在宅勤務になり、仕事している姿をより見せられたこと。（41歳母親／中2男子）
- 職業の選択肢をたくさん知ってほしいから、出掛けたときやテレビを見ているときでも、「こうゆう仕事もあるんだよ」と話している。（45歳母親／中3女子）
- 調理師の主人が料理を教えたり、美味しいものを作り、自分でできたら楽しいよと自然に伝えるようにしている。（45歳母親／中3男子）
- 私の職場が福祉施設で、コロナ禍前には何度かボランティア体験をさせた。現場を見せることはとても良かったと思う。（48歳母親／中2男子）
- 自分の仕事に対する考えや価値観を話して、将来の参考にして欲しいと話をしたこと。（47歳父親／中2男子）
- YouTube等の動画配信サービスで様々な仕事の風景を見ることができるので、仕事をよりリアルに感じているようだ。子供はそれを見るのが好きで、実際にいくつかの職業に興味を持ち始めている。（38歳父親／中2男子）

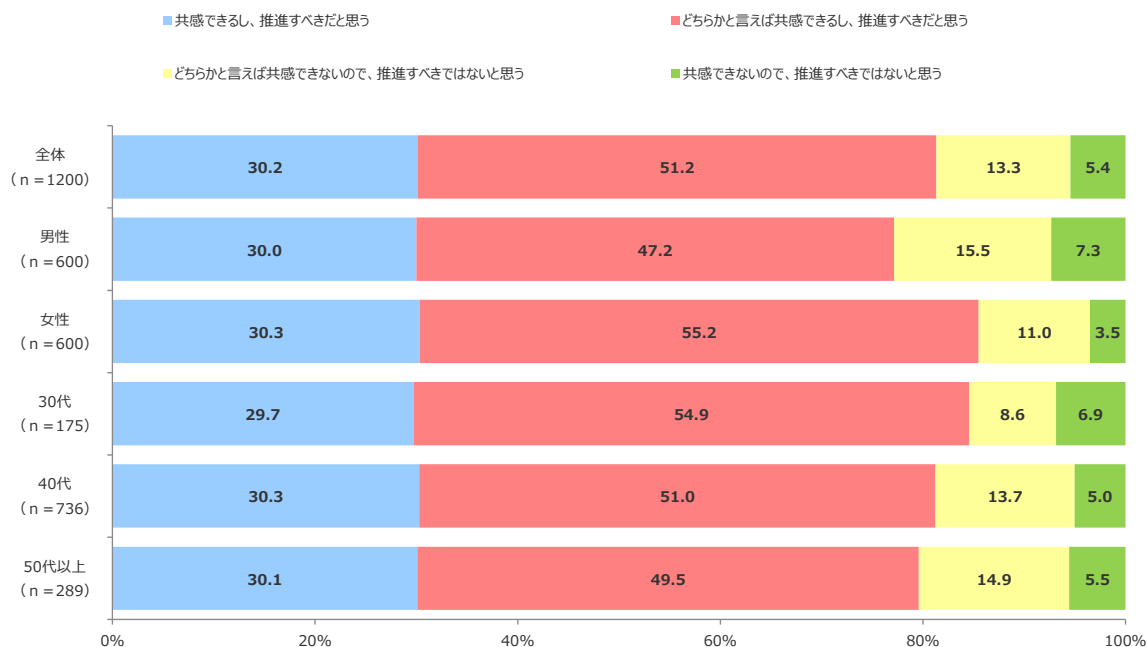
## ジェンダー平等に対する考え

中学生の子供がいる男女に、SDGs（持続可能な開発目標）の中の「ジェンダー平等を実現しよう」という目標に対する考えを聞いたところ、全体では「共感できるし、推進すべきだと思う」30.2%、「どちらかと言えば共感できるし、推進すべきだと思う」51.2%、「どちらかと言えば共感できないので、推進すべきではないと思う」13.3%、「共感できないので、推進すべきではないと思う」5.4%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「共感できるし、推進すべきだと思う（どちらかと言えば含む／以下同）」が81.4%、「共感できないので、推進すべきではないと思う（どちらかと言えば含む／以下同）」が18.7%である。

回答者の性別でみると、「共感できるし、推進すべきだと思う」との回答は、男性が77.2%、女性が85.5%で、女性の方が8.3ポイント割合が高くなった。

年代別でみると、「共感できるし、推進すべきだと思う」との回答は、30代で84.6%、40代で81.3%、50代以上で79.6%となり、年代が上がるに連れ、肯定派が少なくなる傾向だった（図11）。

【図11】ジェンダー平等に対する考え：回答者性別／年代別



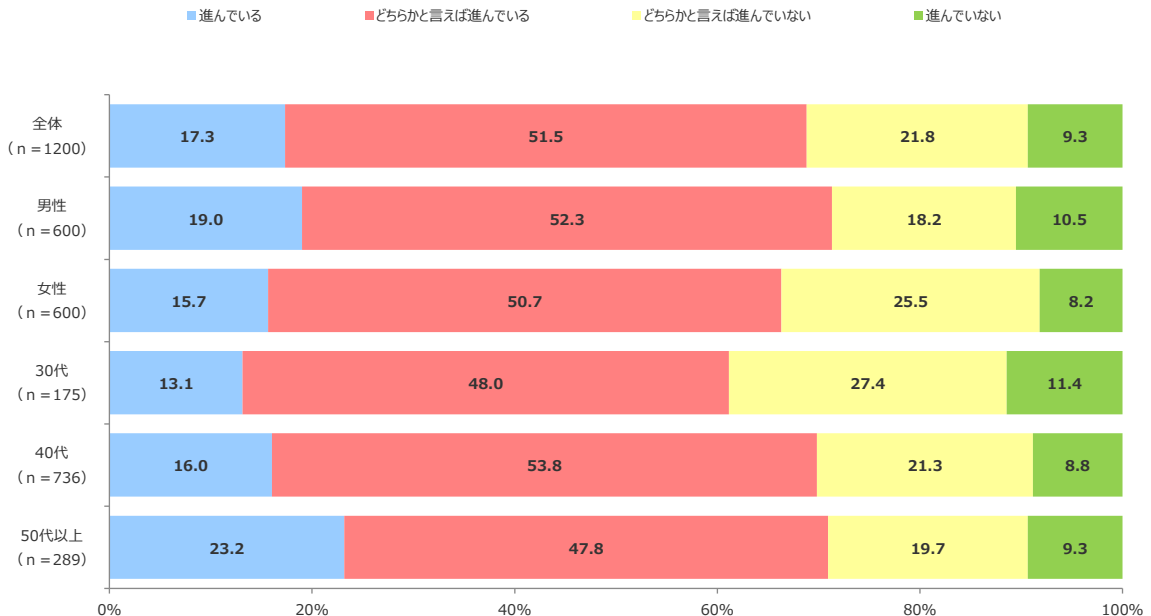
## 中学校等学びの場でのジェンダー平等は進んでいるか

中学生の子供がいる男女に、自分が中学生の頃と比べて、子供の中学校やその他学びの場でジェンダー平等は進んでいると思うかを聞いたところ、全体では「進んでいる」17.3%、「どちらかと言えば進んでいる」51.5%、「どちらかと言えば進んでいない」21.8%、「進んでいない」9.3%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「進んでいる（どちらかと言えば含む／以下同）」が68.8%、「進んでいない（どちらかと言えば含む／以下同）」が31.1%である。

回答者の性別でみると、「進んでいる」との回答は、男性が71.3%、女性が66.4%で、男性の方が4.9ポイント割合が高くなった。

年代別でみると、「進んでいる」との回答は、30代で61.1%、40代で69.8%、50代以上で71.0%となった。年代が上がるに連れ、中学校等学びの場でのジェンダー平等は「進んでいる」との回答が増えていた（図12）。

【図12】中学校等学びの場でのジェンダー平等は進んでいるか：回答者性別／年代別



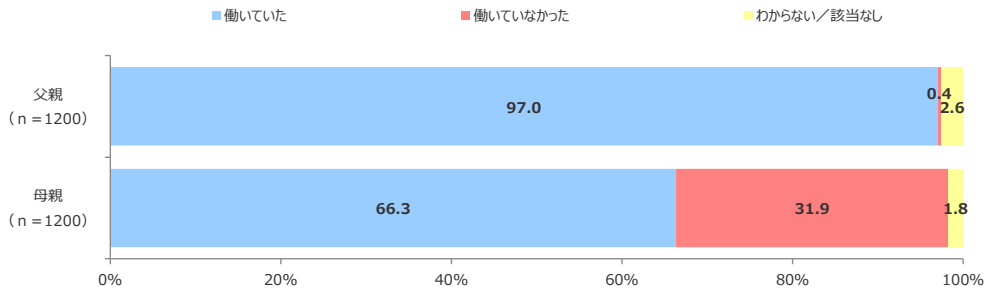
# 回答者の親の就業状況と自身が子供の頃の家庭における性別役割分担意識の有無

中学生の子供がいる男女に、自身が子供の頃に両親が働いていたかを聞いたところ、父親が働いていた家庭は97.0%、母親が働いていた家庭は66.3%だった（図13.1）。

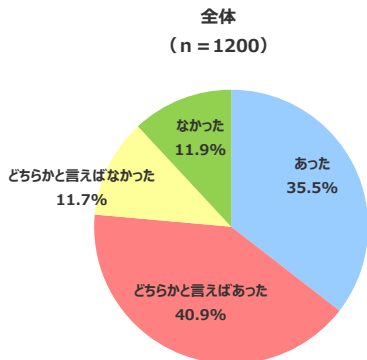
またあわせて、家庭内において「男性は仕事」「女性は家事・育児」という雰囲気があったかを聞いたところ、「あった」が35.5%、「どちらかと言えばあった」が40.9%となり、両者をあわせると76.4%の家庭で性別役割分担意識が「あった」と回答している（図13.2）。

これを母親の就業状況別にみると、母親が働いていた家庭では「あった（どちらかと言えばを含む）」が71.6%、母親が働いていなかった家庭では「あった（どちらかと言えばを含む）」が87.7%となり、母親が働いていなかった家庭の方が、16.1ポイント割合が高くなった（図13.3）。

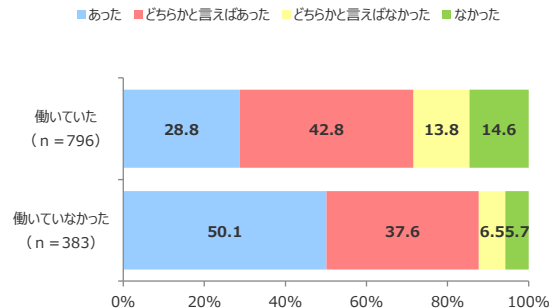
【図13.1】回答者の親の就業状況



【図13.2】子供の頃の家庭における性別役割分担意識の有無



【図13.3】子供の頃の家庭における性別役割分担意識の有無：母親の就業状況別



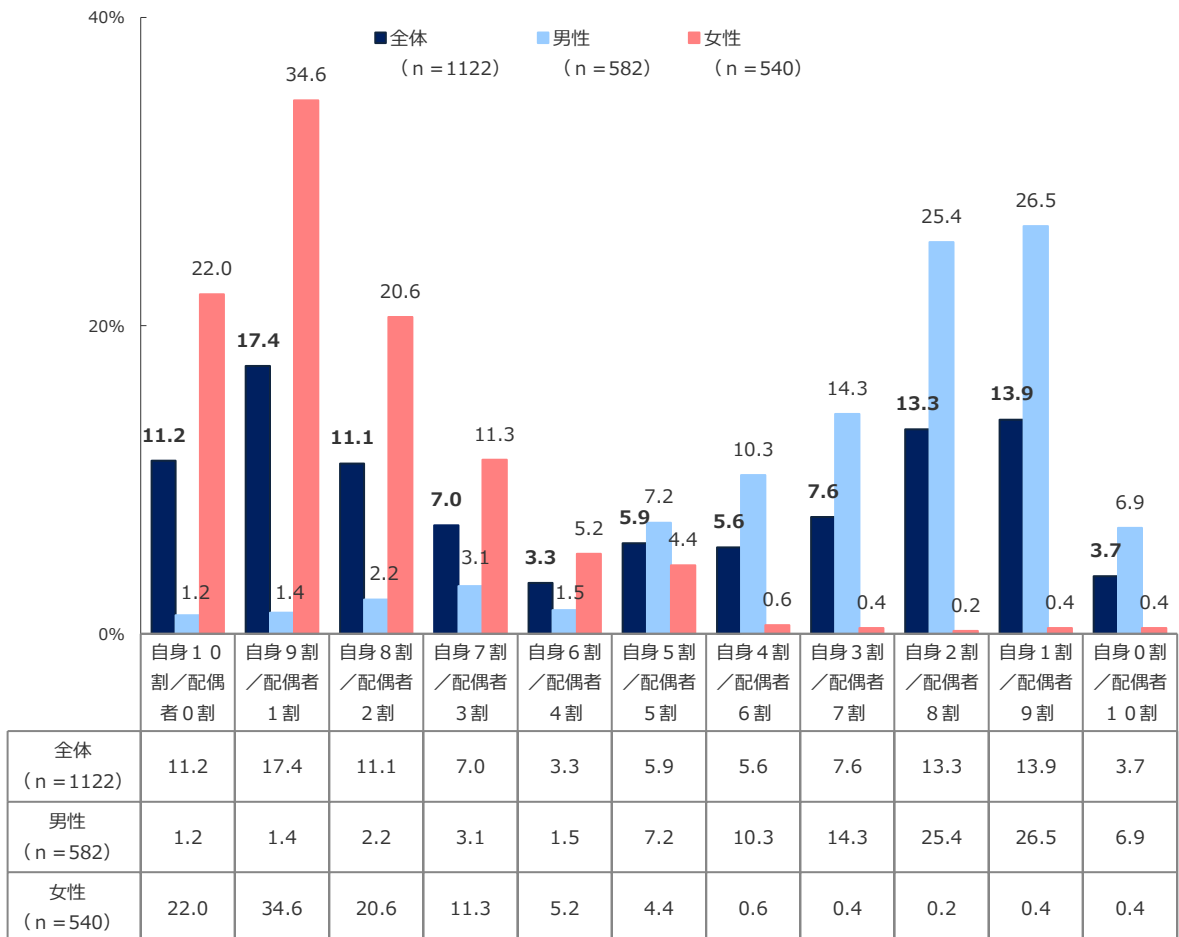
## 配偶者との家事・育児の分担割合

中学生の子供がいる男女に、家庭における家事や育児の分担について、仕事のある日と休日を含めた1週間について、自身と配偶者との分担割合を聞いた。全体では「自身9割／配偶者1割」が17.4%と最も多く、次いで「自身1割／配偶者9割」13.9%、「自身2割／配偶者8割」13.3%となった。

これを性別で見ると、男性は「自身1割／配偶者9割」が26.5%と最も多く、次いで「自身2割／配偶者8割」25.4%、「自身3割／配偶者7割」14.3%、「自身4割／配偶者6割」10.3%となった。これに「自身0割／配偶者10割」の6.9%を含めると、家事・育児の役割を4割以下しか分担していない男性は83.4%に上る。

一方、女性は「自身9割／配偶者1割」が34.6%と最も多く、次いで「自身10割／配偶者0割」22.0%、「自身8割／配偶者2割」20.6%、「自身7割／配偶者3割」11.3%、「自身6割／配偶者4割」5.2%となった。家事・育児の役割を6割以上分担している女性は93.7%に上り、うち自身が9割以上と回答している女性は56.6%と過半数を占める。ジェンダー平等に対する考えを聞いた設問では、約8割が肯定派であったが、就労状況の違いなどもあり、家事・育児については女性に多くの負担が掛かっていることがうかがえる（図14）。

【図14】 配偶者との家事・育児の分担割合：回答者性別



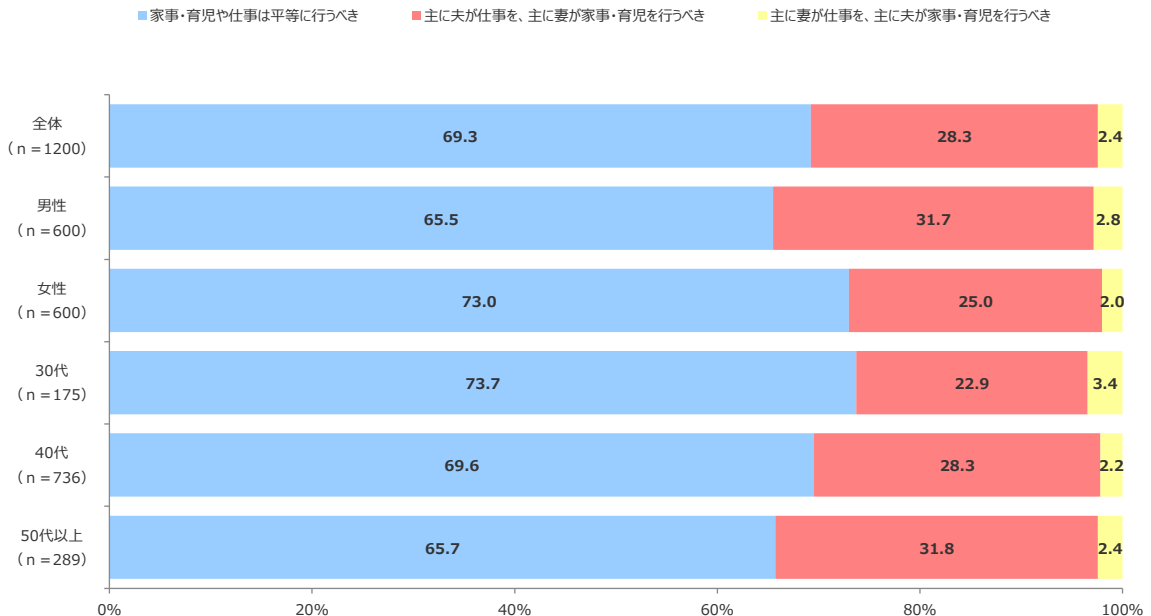
## 将来子供が結婚した際の家事・育児や仕事に対する考え

中学生の子供がいる男女に、自分の子供が将来結婚したら、家事・育児や仕事は夫婦で平等に行うべきだと思うかを聞いたところ、全体では「家事・育児や仕事は平等に行うべき」69.3%、「主に夫が仕事を、主に妻が家事・育児を行うべき」28.3%、「主に妻が仕事を、主に夫が家事・育児を行うべき」2.4%となった。

回答者の性別でみると、「家事・育児や仕事は平等に行うべき」は男性で65.5%、女性で73.0%となり、女性の方が7.5ポイント割合が高くなっている。

年代別でみると、「家事・育児や仕事は平等で行うべき」との回答は、年代が低いほど割合が高くなっている。具体的には、30代で73.7%、40代で69.6%、50代以上で65.7%である。一方、「主に夫が仕事を、主に妻が家事・育児を行うべき」という回答は、年代が高いほど割合が高い（図15）。

【図15】 将来子供が結婚した際の家事・育児や仕事に対する考え：回答者性別／年代別





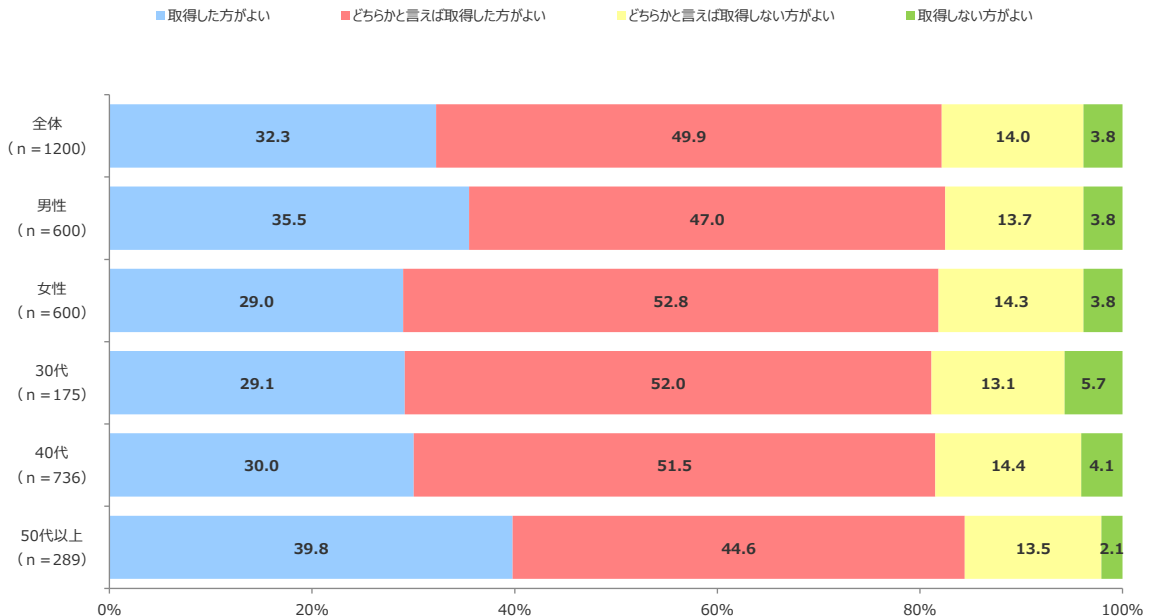
## 男性育休に対する考え

中学生の子供がいる男女に、男性の育児休業取得に対する考えを聞いたところ、全体では「取得した方がよい」32.3%、「どちらかと言えば取得した方がよい」49.9%、「どちらかと言えば取得しない方がよい」14.0%、「取得しない方がよい」3.8%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「取得した方がよい（どちらかと言えば含む／以下同）」が82.2%、「取得しない方がよい（どちらかと言えば含む／以下同）」が17.8%である。

回答者の性別でみると、「取得した方がよい」との回答は男性が82.5%、女性が81.8%となり、ほとんど差はなかったが、「どちらかと言えば」を含まない「取得した方がよい」では、男性が35.5%、女性が29.0%で、男性の方が6.5ポイント割合が高くなっていた。

年代別でみると、「取得した方がよい」との回答は、30代で81.1%、40代で81.5%、50代以上で84.4%となり、年代が上がるに連れ、肯定派が多くなる傾向だった。また、「どちらかと言えば」を含まない「取得した方がよい」では、30代、40代が3割に対して、50代以上では4割と10ポイント程度割合が高くなっていた（図16）。

【図16】 男性育休に対する考え：回答者性別／年代別

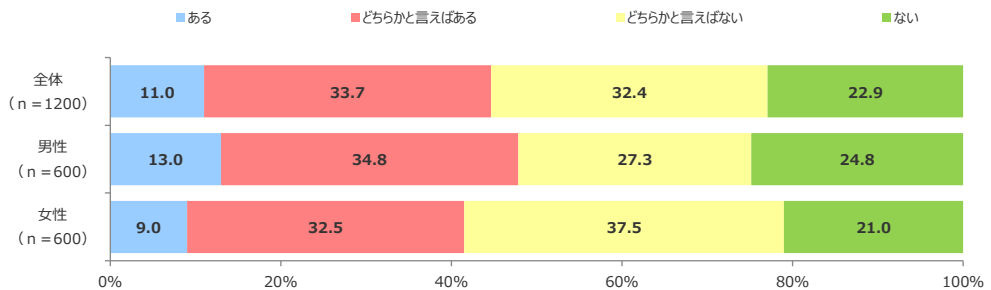


# 性別役割分担意識に基づく子供への行動の促し

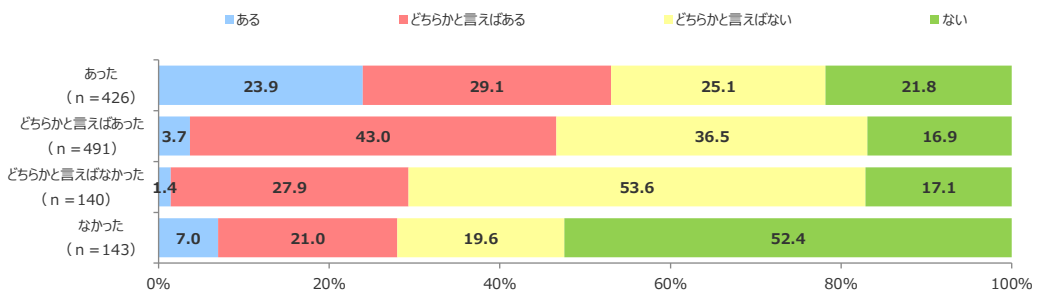
中学生の子供がいる男女に、子供に対して「男の子だから〇〇しないと」あるいは「女の子だから〇〇しないと」と本人に言ったり、行動を促したことはあるかを聞いた。全体では「ある」11.0%、「どちらかと言えばある」33.7%、「どちらかと言えばない」32.4%、「ない」22.9%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「ある（どちらかと言えば含む／以下同）」が44.7%、「ない（どちらかと言えば含む／以下同）」が55.3%である（図17.1）。

回答者の子供の頃の家庭における性別役割分担意識の有無別で見ると、性別役割分担意識が「あった」家庭では子供への行動の促し等が「ある」は53.0%だった。以下同様に見ていくと、「どちらかと言えばあった」家庭では「ある」が46.7%、「どちらかと言えばなかった」家庭では「ある」が29.3%、「なかった」家庭では「ある」が28.0%となっており、回答者が育った家庭における性別役割分担意識の有無が、自分の子供に対する行動等にもつながっている傾向となっているようだ（図17.2）。

【図17.1】性別役割分担意識に基づく子供への行動の促し：回答者性別



【図17.2】性別役割分担意識に基づく子供への行動の促し：子供の頃の家庭における性別役割分担意識の有無別



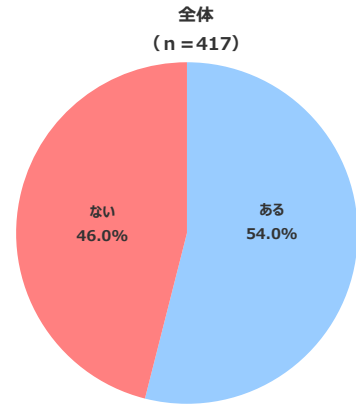
# 性別の違う子供に対する対応の違いについて

中学生の長子の他に性別の違う子供がいる男女に、性別の違う子供に対して普段の生活の中で対応を変えてしまうことがあるかを聞いたところ、「ある」は54.0%、「ない」は46.0%となった（図18.1）。図表は掲載していないが、「ある」は男性で57.4%、女性で50.9%となり、男性の方が6.5ポイント割合が高かった。

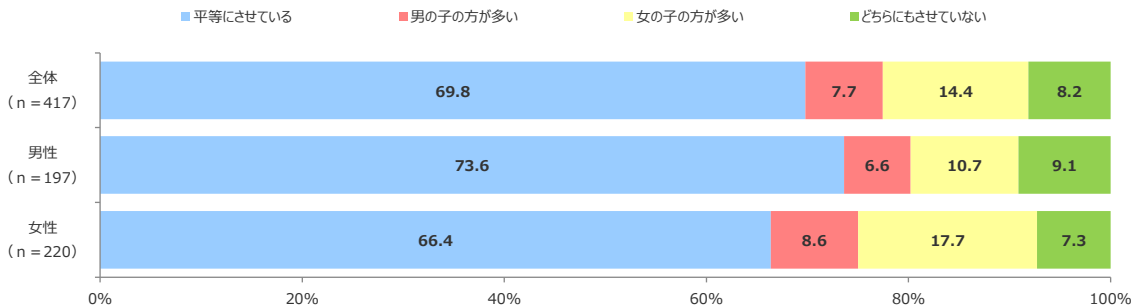
また、性別の違う子供に対して家の手伝いを平等にさせているかを聞いたところ、全体では「平等にさせている」69.8%、「男の子の方が多し」7.7%、「女の子の方が多し」14.4%、「どちらにもさせていない」8.2%となった。

回答者の性別でみると、「平等にさせている」は男性で73.6%、女性で66.4%となり、男性の方が7.2ポイント割合が高くなっている。また、男性も女性も、「女の子の方が多し」との回答は「男の子の方が多し」よりも割合が高くなっている。特に母親である女性の場合、「男の子の方が多し」8.6%に対して、「女の子の方が多し」は17.7%と、女の子の方に手伝いをさせる割合が9.1ポイント高いことが特徴的である（図18.2）。

【図18.1】性別の違う子供に対して対応を変えてしまうことはあるか



【図18.2】性別の違う子供に対して家の手伝いを平等にさせているか：回答者性別



## 【対応を変えてしまう事柄】

- 女の子だから家事を覚えてほしいと思い、手伝いを頼む時は長男より長女に頼むことが多い。（47歳母親／中2男子）
- 女子には女子の、男子には男子の扱い方を自然に考えて行動しているように思う。（43歳父親／中1女子）
- 長女には料理をしてみたらと言ってしまいが、長男には言わない。（54歳父親／中2女子）
- 力仕事は男の子の方に、家事系は女の子の方に手伝いをさせてしまう。（38歳母親／中3男子）
- 家事の手伝いを頼むとき、台所での仕事は娘に頼み息子には頼んだことがない。（37歳母親／中2男子）
- 本質が違うので、男子は男子らしく、女子は女子らしく振舞うべきだと思います。（48歳母親／中2女子）
- 娘は可愛く、息子は愛おしい。性別が違うからか息子には優しくしてしまうところがある。（34歳母親／中2女子）
- 几帳面な長男に対しては「それくらい気にしなくていい」と言うのに対し、がさつな長女に対しては「そういうことに気を遣わないとステキなお姉さんになれない」と言う。（41歳父親／中2男子）
- 息子には女の子には手を挙げないと、徹底して言い聞かせている。娘には足をあけて座っていたら注意をする。（36歳母親／中3女子）

# 性別の違う子供に対する将来期待する 学歴の違いについて

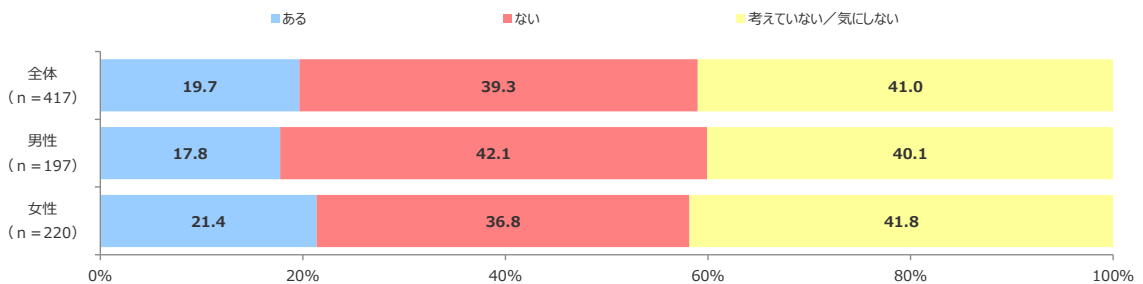
中学生の長子の他に性別の違う子供がいる男女に、性別の違う子供に対してそれぞれ将来期待する学歴に違いがあるかを聞いたところ、全体では「ある」は19.7%、「ない」は39.3%、「考えていない／気にしない」は41.0%となった。

回答者の性別でみると、「ある」は男性で17.8%に対して、女性は21.4%と3.6ポイント割合が高くなっていった（図19.1）。

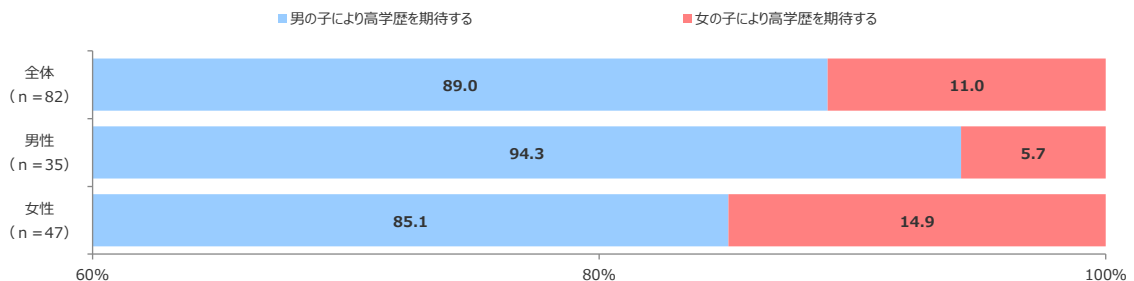
また、将来期待する学歴に違いが「ある」とした回答者に、どちらに高学歴を期待するのかを聞いたところ、全体では「男の子により高学歴を期待する」89.0%、「女の子により高学歴を期待する」11.0%となった。

回答者の性別でみると、「男の子により高学歴を期待する」は男性で94.3%、女性で85.1%となり、男性の方が9.2ポイント割合が高くなっていった（図19.2）。

【図19.1】性別の違う子供に対して将来期待する学歴に違いがあるか：回答者性別



【図19.2】どちらに高学歴を期待するのか：回答者性別

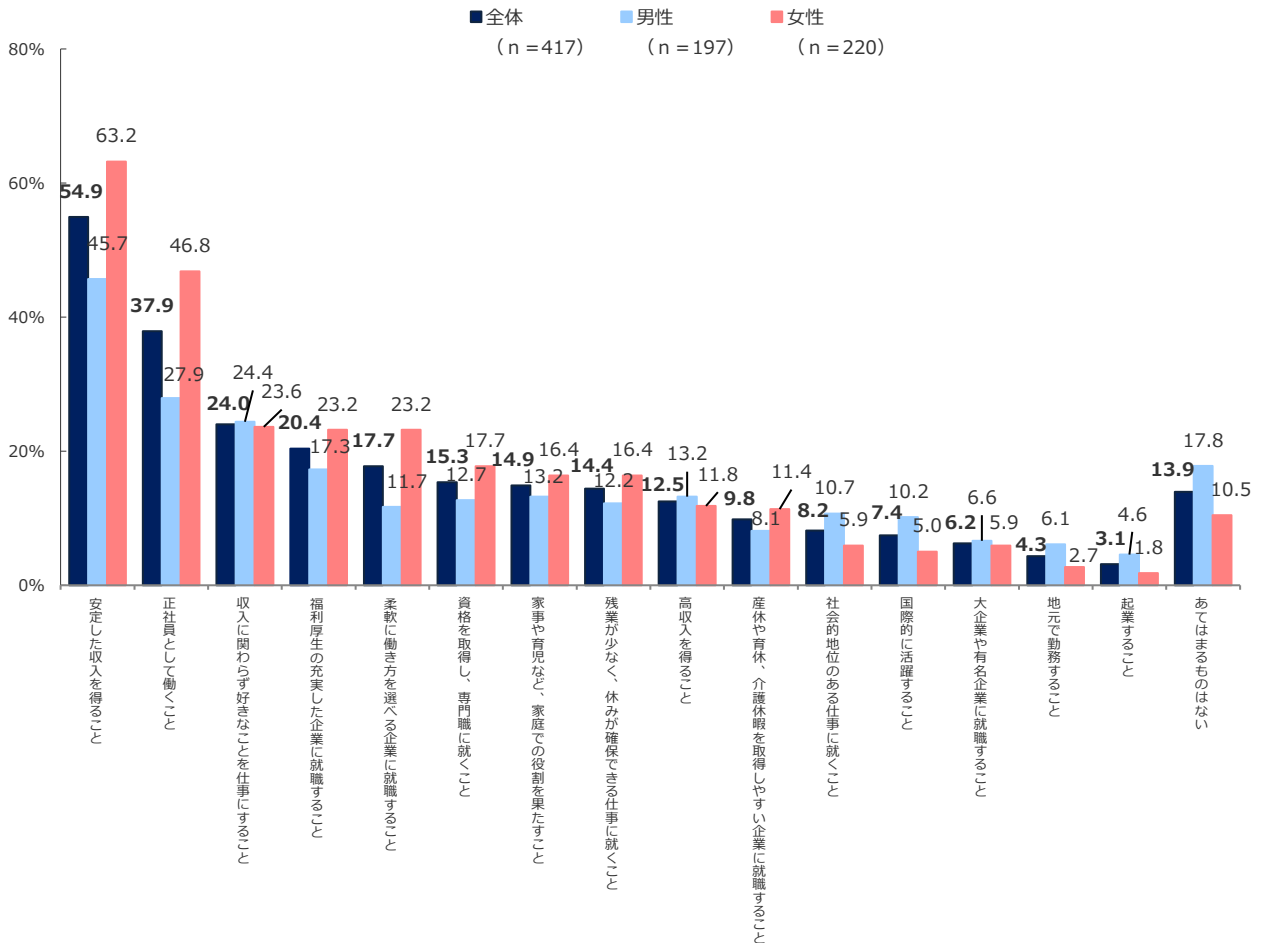


## 男の子に将来重視してほしいこと

中学生の長子の他に性別の違う子供がいる男女に、男の子と女の子それぞれに将来重視してほしいことを5つまで聞いた。男の子に将来重視してほしいことについては、全体では「安定した収入を得ること」が54.9%と最も多く、次いで「正社員として働くこと」37.9%、「収入に関わらず好きなことを仕事にすること」24.0%となり、上位3項目の順位は女の子に将来重視してほしいことと同じである。以降「福利厚生が充実した企業に就職すること」20.4%、「柔軟に働き方を選べる企業に就職すること」17.7%、「資格を取得し、専門職に就くこと」15.3%、「家事や育児など、家庭での役割を果たすこと」14.9%、「残業が少なく、休みが確保できる仕事に就くこと」14.4%の順となっている。

回答者の性別でみると、全体計と比べて上位の項目の順位にほぼ変動はなかったが、上位2項目の「安定した収入を得ること」「正社員として働くこと」については、男性より女性の方が将来重視してほしいこととした割合が突出して高くなっていた。具体的には、それぞれ17.5ポイント、18.9ポイント差となり、母親として男の子に将来安定した生活を送ってほしいと考えていることがうかがえる（図20）。

【図20】男の子に将来重視してほしいこと（5つまで）：回答者性別



## 女の子に将来重視してほしいこと

中学生の長子の他に性別の違う子供がいる男女に、男の子と女の子それぞれに将来重視してほしいことを5つまで聞いた。女の子に将来重視してほしいことについては、全体では「安定した収入を得ること」が44.4%と最も多く、次いで「正社員として働くこと」29.3%、「収入に関わらず好きなことを仕事にすること」27.3%となり、上位3項目の順位は男の子に将来重視してほしいことと同じである。以降「家事や育児など、家庭での役割を果たすこと」21.3%、「産休や育休、介護休暇を取得しやすい企業に就職すること」20.4%、「福利厚生が充実した企業に就職すること」19.4%、「柔軟に働き方を選べる企業に就職すること」18.5%、「残業が少なく、休みが確保できる仕事に就くこと」15.1%の順となっている。

回答者の性別でみると、全体計と比べて上位の項目の順位にほぼほぼ変動はなかったが、「安定した収入を得ること」については、男性より女性の方が17.7ポイント割合が高くなった。また、「正社員として働くこと」も男の子ほどではないが、男性より女性の方が11.1ポイント割合が高くなった(図21)。

将来重視してほしいことを男の子(前掲)と女の子の全体計で比較してみると、上位3項目「安定した収入を得ること」(男子54.9%/女子44.4%)、「正社員として働くこと」(男子37.9%/女子29.3%)、「収入に関わらず好きなことを仕事にすること」(男子24.0%/女子27.3%)となり、「収入に関わらず好きなことを仕事にすること」以外は、男の子に対する回答割合が高くなった。

【図21】女の子に将来重視してほしいこと(5つまで)：回答者性別

